

各位

アスパラガスの台風後対策について（10号）

R6.8 アグリ技研（株）

1. 台風通過後対策について

《施設環境改善対策》

①台風通過前にビニール降ろした場合は、茎葉の乾いた状態であるべく早目に再度 被覆する。再

び降雨や夜露に遭遇すると茎枯れ等の要因となります。

（茎葉の濡れた状態での被覆は、高温での葉ヤケとなり茎葉枯れの誘発となります）

②施設の破損等は、早急に復旧作業を行う。（パイプ・ビニール・ネット）

特にネットなど損傷した場合には、ハウスバンドなどを利用して茎葉を畝上に寄せ

て草勢を保つ様にします。

③施設内に浸水している場合は、早急に排水対策と土壌の乾燥に努めます。

《施設内栽培環境改善対策》

①強風や高温多湿状態で、ハウス内は数日間経過していますので、まずは薬剤防除を

第一に実施しましょう。防除の注意点としてはビニール被覆状態で茎葉が十分に 乾燥してなるべ

くハウス内温度の低い時間帯に行いましょう。

（茎葉の濡れた状態では茎葉に薬害が出易くなります）

《茎葉の乾いた状態で「斑点・褐斑・茎枯れ」と「ダニ・ヨトウ類（シロイチモジ）」》

(1)斑点性には、ダコニール 1000・シグナム WDG・アフェット F など

(2)害虫類には、グレースシア・コテツフ F など（登録剤を参考に）

②多雨で圃場内が冠水した場合には、排水対策と合わせて酸素供給材や土壌改良資材

の EB-a を 500 倍で灌注処理。

（長時間冠水の場合は、フザリウム菌や疫病の対応も合わせて対策しましょう）

③草勢回復に、アミノ酸液肥のコラーゲン・ラボの 500～800 倍（やや薄く）で

葉面散布を行いましょう。（薬剤混用可）

④根域の動きを良くするのにアミクエ 5～10 kg/10a を 5～7 日置きに灌水施肥。

⑤強風等で茎の倒伏の場合は、株元を押さえて再度ネット内に引き起こします。

⑥強風で茎葉の損傷している場合は、枯れ込んで来たら除去整理します。

⑦圃場内に浸水や長時間冠水した場合には、一時的な土壌酸欠状態で収穫量も 増加し

ますので過密にならない様に必ず収穫をしましょう。

⑧茎葉の損傷が多くて追加立茎を必要とする場合には、なるべく早めに行って過密にならない程度

で本数の確保をしましょう。（本数は㎡に 18～20 本前後）

《春芽の収量安定のために、これからの草勢維持に努めましょう》